

令和6年度 第1回学校運営協議会議事録

- 1 開催日時 令和6年4月24日（水）
開会：午後3時 閉会：午後4時30分
- 2 開催場所 静岡県立三島南高等学校 会議室
- 3 出席委員数 5人
- 4 校長挨拶
 - (1) 学校運営協議会制度の概要説明
 - ア 保護者や地域住民が一定の権限と責任を持って学校運営に参画するための制度である。
 - イ 合議制の機関として話し合って一定の結論を見出す。
 - ウ 学校と学校運営協議会は「対等な立場」である。
 - エ 学校経営計画のうち、「目指す学校像」に関する事項は協議会の承認を得なければならない。
 - オ 学校運営協議会は校長又は教育委員会に意見を述べることができる。
 - (2) 学校の様子
 - 今年度210人の新入生を迎えスタートした。入学式やガイダンス、遠足を終え通常授業が始まり、先週末からインターハイ予選や函嶺祭の準備も本格化してきている。
 - また、先週から2年生のクラスにドイツからの留学生を受け入れている。クラスにも馴染んで、興味のある選択授業を受講したりしている。コロナを経て、国際交流が再開した。
- 5 運営委員の紹介 （各分掌課長・学年主任自己紹介）
- 6 運営協議会 三田 章裕（学校運営に資する活動を行う者）
委員の紹介 大嶋 孝博（学校運営に資する活動を行う者）
山下 巖（学識経験者）
鈴木 廣幸（地域住民）
村上 利恵子（保護者）
- 7 任命状の交付
- 8 役員選出 会長 三田 章裕 副会長 大嶋 孝博

7 会長挨拶

今年2年目の委員となる。先ほど校長先生から学校運営協議会の位置付けについて話があったが、学校からの提案を可能な限り学校のビジョンに寄り添った形で運営できるように、この協議会は「学校の最大の応援団」でありたいと思っている。

学校とは違った視点で、様々な分野の委員の皆様からの忌憚のない意見をお願いしたい。

8 議案の審議状況及び議案別議決の結果

第1号議案 令和6年度学校経営計画書（案）

校長から令和6年度学校経営計画書（案）について内容説明を行った。

(1) スクールミッション

課題発見し（知）、他者と連携・協力しながら（仁）、課題解決に向けて行動する（勇）」の力を身に付ける教育を通して、主体的に学んで自らの人生を切り拓き、地域に貢献する人材を育成することを目指している。

それに基づいて、スクールポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、グラデュエーションポリシー）を設定している。

(2) スクールポリシー具現化の柱は昨年度と変更なし。

(3) 本年度の取組目標・達成方法（変更点を中心に説明）

ア「基本的な生活習慣を身につけ、常に自覚ある行動ができる生徒を育成する。」

成果目標として「三南生としての自覚ある行動ができた生徒」を追加した。

イ「学習に主体的に取り組み、学びを深めようとする生徒を育成する。」

成果目標の「家庭学習をよくしている生徒」から「自主学習をよくしている生徒 前年度以上」に変更した。また、達成方法（取組手段）の一部を高大連携事業（校外学修、順天堂大学との連携等）に変更した。

ウ「自らの進路や生き方について深く考え、それを実現できる基礎的能力・学力を有する生徒を育成する。」

達成方法（取組手段）「キャリア教育の充実」に「自己・社会探究等」を追加した。

エ「特別活動や部活動を通して、心身ともに健康で人間性・社会性が豊かな生徒を育成する。」

達成方法（取組手段）「部活動の充実」を「部活動の主体的、自発的な取組」に変更した。

オ「芸術に関する授業や行事等を通して完成を培い、表現力豊かな生徒を育成する。」 変更なし。

カ「グローバルな視点で考え行動し、社会で活躍できる生徒を育成する。」

3月にはアメリカのカーマン市からの訪問団の受け入れの機会があった。今年度はドイツからの留学生を受け入れている。こういった国際交流の機会を増やしていきたい。また、新型コロナウイルスの影響で中断していた「三南の翼」を今年度8月に再開する。行き先は台湾、生徒は7人参加予定である。

キ「学校運営協議会を通して地域連携を深め、地域課題の解決を目指す教育活動を行う。」

成果目標に「自覚探究の活動に興味・関心を持って取り組んでいる生徒 80%以上」を追加した。また、「PTA総会の参加率 前年度以上」を「PTA活動は参加しやすい（負担感が少ない）と回答する保護者 70%以上」に変更した。

ク「生徒の健康・安全を第一に考え、安心・安全な学校づくりを徹底する。」

昨年度、協議会での御意見を踏まえ、成果目標「地域防災への参加率 50%以上」を「緊急時に保護者との連絡体制が確認できている生徒 90%以上」に変更した。

ケ「教職員自らが資質能力の向上に取り組むとともに、学校組織の活性化を図る。」変更なし。

コ「教職員の多忙解消のため、業務改善を推進しつつ、事務を適正かつ効率的に執行する。」

達成方法（取組手段）の一部を「持続可能な業務遂行に向けての改善取組」に、成果目標「業務改善のための取組」を「業務改善・削減のための取組」に変更した。

議長から説明に対して委員に質疑応答等の意見を求めた。

【質疑応答】

（鈴木委員）

ア 単位制について教えていただきたい。

（校長）

大学のように授業のある時間だけ登校するというだけでなく、朝から夕方まで授業に出席するのは他の全日制普通科高校と同様である。違いは、様々な科目の中から授業を選択できるということである。このため、時間割によってクラスがバラけ、選択科目ごとの集団で授業を受けることになる。また、生徒は3年次までに教育課程に定められた単位を修得して卒業という形となる。

（大嶋委員）

イ 放課後に自主的に残る生徒の管理はどうしているのか。

（校長）

教員の方も生徒の様子が分かって指導がしやすいという利点もある。しかし、時間外の勤務については様々な意見があり難しいところである。

（大嶋委員）

ウ 探究活動のサイクルとは何か。

（校長）

学年ごとにサイクルがある。1年生は地域の企業訪問やフィールドワークがメインであり、2年生は大学や進路分野への訪問をしている。

（大嶋委員）

探究活動の教材として、外部に何か参考となるものがあれば良いと考えている。地

域でお手伝いできることがあれば言って欲しい。

(山下委員)

エ 三島南高生は大学に入ってからすごく伸びる生徒だと思っていたが、高校の時にこのようなスクールミッションがあったからだと感じた。

(校長)

高校入学においても、医療系や保育系など目標を持って入ってくる生徒が多い。

議長は、委員に第1号議案「令和6年度学校経営計画書(案)」の採決を行ったところ、意義なく、全員一致をもって可決し承認された。

9 報告事項

- (1) 校内分掌の説明(副校長)
- (2) 年間行事予定の説明(副校長)
- (3) 不祥事根絶取組計画の説明(副校長)
- (4) 「効果のある学校づくり」について説明(鳴門教育大学大学院:渡邊旬研究員)
- (5) 最近の学校の様子(教頭)

インターハイ予選結果報告、新聞掲載記事報告

議長から説明に対して委員に質疑応答等の意見を求めたところ、特に意見が無かった。

10 学校運営協議会の今後の予定

第2回 6月1日(土) 函嶺祭(文化の部一般公開)の見学と協議

第3回 11月9日(土) 授業見学と協議

第4回 2月20日(木) 年間反省、学校評価、課題についての協議

*変更の可能性あり

11 閉会(大嶋副会長)

「効果ある学校づくり」の説明を聞いて、学んできたことや蓄えた知識は行動してこそ価値のあるものになると感じた。新しい取組は大変だとは思いますが、ぜひ頑張ってくださいと思う。